

山田みやこの活動報告

令和元年11月6日(水)

連合議員懇談会視察「スマート農業」について

訪問先 株式会社 須藤物産

(長野県上田市武石下本入757)

対応者 代表取締役 田中 直美氏

最高技術責任者 田中 明氏

人工知能システムの導入やオリジナル自動化センシングマシンの開発・医療分野への展開など最先端のスマート農業を推進している。

目指す「スマート農業」は単なる作業の効率化ではなく、愛のある豊かな未来を創る仕事をしている。

須藤物産は栃木県塩谷町の尚仁沢湧水地の郷からスタートし、大田原市に移り歩み始めた。しかし3.11の東日本大震災を起因とした福島第一原発事故の風評被害による大打撃を受けた。そこで全国各地の移転先候補地を探し、2015年信州・上田市の武石地区を選んだ。標高が約800mと高糖度トマト栽培に適している。

高糖度フルーツトマトは糖度10度で、最高糖度は20度。一般的なフルーツトマトは8度。

高糖度フルーツトマトを誕生させるまで世界20ヶ国の農業を研究し、実験を重ね「自然任せの農業」から「サイエンスする農業」へと転換した。敷地面積5haに大型温室ハウス4棟の農場(植物工場)平成27年5月に稼働開始。40名の登録従業者(すべて女性)の内、毎日25名が仕事に携わっている。

温室ハウス内は温度・湿度・日射量等、最先端機器で管理され、その環境の中で生育ギリギリのストレス(ストレス栽培)を受け、高糖度トマトに変身する。

全従業員が女性ということで「トマト栽培は子育てと同じ」という。子育ての中でお母さんが働き続けられる勤務形態、技量をステップアップする勉強会や教育プログラムの実施、各自の保有する専門能力を有効活用するなどの取り組みをしている。

「ルチン」「アントシアニン」「カロテン」「リコピン」など、健康に有効な成分に特化した5種類のカラフルなフルーツトマトを栽培している。首都圏に年間60万パックを出荷。一部地元スーパーにも納入している。健康志向や健康寿命への意識の高まりから「医食同源」の考えで、安全で安心な野菜を提供するという姿勢から医療ケア野菜の分野へも研究開発している。

更にもう一点、3.11の体験から武石地区の農場ではいざという時は住民が避難場所として使えるよう大容量の自家発電装置を備え、シェルターとしての機能を考え、温室ハウス以外の事務所トイレは耐震性の高いトレーラーハウスを活用している。雇用の創出と女性の活躍、災害時の安心を提供し地方創生の一役をはたしている。何よりもうれしいことに、栃木県宇都宮市大谷地区にも事業所開設を準備しているということでした。素晴らしい考え方、地域貢献に大変期待します



Persons

女性の活躍を大きくバックアップ。今までにないオンリーワンのものづくり。

Women's Active Participation

「食」という言葉からイメージされる今までの農作業から、最も遅く離れたクリーンな作業環境がここにあります。人工知能によって制御された温室ハウス内で実際に働くスタッフの声を紹介します。

KYさん 入社10年7月	CKさん 入社10年7月	TSさん 入社11年9月
副産物を育てるのが好きだったので、この仕事は自分に向いていると思いました。ハウス内は想像以上に暑く、湿度も高く、女性にとって過酷な環境で、女性によって仕事をやります。私は、この環境の中で健康から始め、成長まで一連の作業を体験しています。今では高糖度の品質も一部も手作業でも採れるように、毎日が生きています。	思いのほか、トマト栽培は思ったより、食べ慣れた野菜や果物の中で一番難しいと感じています。素晴らしい収穫づくりに自分がかかっていること、それが誇りです。子育てや介護などや同時に複数の仕事も働いていますが、女性の強みを生かして、皆で支え合って休みの調整などを行っています。共働きで働く仲間がいることも大きいですね。	作業内容が毎日違うのですが、丁寧に指導してもらいます。学ぶことが多く、毎朝新しい発見があります。私たちの成長も企業に反映されていますし、最先端技術的な研修機会も多岐にわたります。働く人、一人ひとりを大切にしているからこそ、今までの働き方よりもっと成長しています。10年先の自分を想像して、日々頑張っています。